

存スルヲ定度トス尤銀行紙幣發行ノ増減ニ隨ヒ其準備通貨モ亦
便宜之ヲ増減シ之ヲ資用スルヲ得ヘシ

但シ右紙幣ノ引換多クシテ四分一ノ準備ニテ引換方差支フル
トアレハ別ニ通貨ヲ加ヘテ之ヲ引換ヘ決シテ之ヲ拒ミ又ハ之
ヲ怠ルヘカラス

第二十一條 此條例第四十條第四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ
資本金額ヲ増減スルコトアルニ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債証書
並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ資本金集合ノ手續ヲ了
リタル後公債証書ヲ納メテ同額ノ銀行紙幣ヲ受取リ其引換準備
金ヲ積立ルノ割合ハ即チ左ノ如シ

例ヘハ資本金拾萬圓ヲ以テ創立スル銀行ナレハ

八萬圓ハ 四朱以上利付ノ公債証書實價八萬圓ニ當ル高チ

出納寮ヘ納メ即チ八萬圓ノ銀行紙幣ヲ紙幣寮ヨ
リ受取ヘシ

二萬圓ハ 通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ銀行紙幣引換ノ準備ト
ナスヘシ

但シ此條例第三十條ニ掲クル所ノ規定ニ從テ資本金ヲ集
合スルキハ其入金毎ニ右ノ割合ヲ以テ公債証書銀行紙幣
交收ノ手續ヲナスヘシ

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債証書ヲ出
納寮ヘ納メ其受取証書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ
種類ニテ紙幣寮ヨリ受取リ之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以
テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債証書ノ請取証書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債証書ノ勘査ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債証書ハ毎年一度(又ハ數度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ニ差出スヘシ

但シ右改人出納寮ニ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條 右公債証書ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債証書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシ

トセハ其趣ヲ出納頭ニ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債証書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條 右公債証書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取リ毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同ニ分配スヘシ

但シ銀行ニ於テ其銀行紙幣引換ノヲ怠ルカ又ハ此條例ニ背戻スルヲアソハ紙幣頭ハ其利息ヲ取押フルヲアルヘシ

第三章 株式ノ分割資本金入金ノ割合株式没入株主牒ノ記入株式ノ賣買及ヒ資本金増減等ノ專ヲ明カニス

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓

ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五十圓二十
五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但シ拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ
五十圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本
金ヲ以テ創立スル者ナレハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト
定ムヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任

セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族
何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其
銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者
ハ株主トナルヲ許サズ

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ
始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行
ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ
月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎々其銀行ノ頭取支配人ハ成規

第十三條ニ準據シ資本金集合高届書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠
ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ沒入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ
三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ
之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株
主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アレサル時ハ是迄入金シ

タル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎮店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名住所屬族職業(若シ之アラハ)

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即

チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主ヲランコトヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閲ヲ拒ミタルハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閲ヲ停

止スルヲ得ヘシ

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノカ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書シ面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十三條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルヲ得ヘシ

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其

株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サズ

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サズ但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクハ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ

減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二 其他期限未滿タリトモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ揭クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ

勘定仕拂ヲ拒ムコトアルキハ紙幣頭ハ右資本金減少証書ニ許可ナ
與ヘサルヘシ

第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類其通用ノ能力引換場所及

ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ
命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ其紙質ノ堅牢ト彩
紋ノ精緻ヲ要シ深ク贗摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ
從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮へ
納ムヘシ

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓二圓五圓十圓二十圓五十圓
百圓五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カ
ラサルヘシ

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債証書ヲ抵當トシ
テ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記
録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號番號ヲ押捺シテ紙幣頭
之ヲ其銀行へ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人
ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル
所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全額何レ
ノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於
テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ
但シ公債証書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ其銀行ノ本店ニ於テ之ヲ引換フヘシ

但シ支店ヲ設置スル銀行ハ其銀行ノ都合ニ依リ本店ノ外支店ニ於テモ亦其引換ニ從事スルヲ得ヘシ

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭へ差出シ其代ノ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類記號番號金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其

廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章

銀行營業ノ本務公債證書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限利息ノ制限銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ引受貸シ抵當貸シノ別ナク貸附ケ又ハ當坐並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形約束手形代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書外國貨幣並ニ金銀銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩

替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債証書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金預リ金爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルコヨリ此等ノ事業ヲ經營セズシテ唯公債証書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サズ

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サズ尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地税法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取

リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引

取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返済ノ約定日切トナリテ借注ヨリ返金ノ代リトシ

テ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳

ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返済スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取リ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘ

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地
所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取り又ハ買取リタル地所物件ハ
遲クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限
ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金ノ利息ハ年壹割(元金
十分ノ一)ヨリ超過スヘカラス若シ此制限ヲ超過シ不相當ノ利息
ヲ要スルコトアレニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀
行ヲ督責シ以テ之ヲ其制限ノ割合ニ歸セシムヘシ

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物
トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取りテ貸付

金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラ
ス然レモ貸付金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得
ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ遲クモ六箇
月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運
轉流用スルニハ須ラク之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ
十分ノ二五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ
金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公價証書ヲ質
價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行
スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘ

カラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルキハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受メテ命スヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ銀行紙幣ノ引換或ハ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應ジ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

但シ此出金ハ全ク一時償辨ノタメニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主ヘ返辨スヘシ

第六章

銀行名號ノ掲牌社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲シヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告諸証書諸手形諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用ウヘシ

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサレ罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サレメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若

シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用非或ハ人ヲシテ之ヲ用非シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形約束手形証書注文書受取証書受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルハ拾圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形約束手形切手注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ルハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主へ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人苟モ其銀行ノ命

任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財産動産不動産ノ別ナクノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ舉アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受托人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財産ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委託スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五十圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル証據トシテ何

レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラル、ヲ得ヘシ

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式又ハ臨時(休暇日ヲ除ク)ノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式又ハ臨時(休暇日ニ當ルモ)ノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤臨時ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨

時總會ハ此限ニアラス

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルヲ得ヘシ

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按テ出シ其銀行株主臨席ノ總員本人代人ヲ論セス(四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ)且其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後十(四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日

(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭へ差出シテ其承認ヲ受ク
ヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スヲ怠ルニ於テ
ハ右ノ日數以後(即チ十六日目ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ除
エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲナサシメ又
ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第
四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記
載シタル寫ヲ各株主へ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セス
シテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ
付五圓ヲ除エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ
爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘ
シ

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業
時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報
告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ株
主ノ點檢ヲ拒ムキハ五圓ニ除エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締
役支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同
額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲
メ紙幣頭ハ大藏卿へノ稟議ヲ經テ(定例臨時ノ別ナク)官員ヲ命遣
シ銀行一切ノ業體ヲ檢査セシムヘシ

但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿へノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地
方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時ノ別ナク)檢査セシ
ムルコトアルヘシ尤右檢査ニ從事シタル地方官ハ其檢査シタル

旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭へ報知スヘシ

第七十四條 右検査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時
間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀
行一般ノ業體ヲ検査シ其銀行役員ノ處務此條例成規ニ規定スル
所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其検査ノ實況ト考按
ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル
株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管
轄地方官へ委託シテ其銀行一切ノ業體ヲ検査セシムルコトアルヘ
シ但シ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭へ差
出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此検査ヲ請願
セシ株主等へ下附スヘシ

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ
規定スル所ノ検査官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受
ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キ
ハ此限ニアラス

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等
ノ實際説明ナル考課狀並ニ報告計表(成規第六十六條ニ規定スル
所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ
記名調印シテ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖
ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ
世上ニ公告スヘシ

第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコトア

レハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルヲアルヘシ○
 若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙
 幣頭ノ命スル日ヨリ郵便遞送日數ヲ除ク十日以内ニ差出サ、ル
 キハ十日以外(即チ十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラ
 ス百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

第八章

利益金分配ノ方法及ヒ積金割合ノ規定ヲ明カニス

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ半季毎トニ
 其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ
 金額及ヒ滯貸金ノ金額(若シ之アラハ)ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金
 トナシ又此内ヨリ次條ニ規定セル積金ヲ引去リ其餘ノ金額ヲ以
 テ總株主ヘ分配スヘシ 尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前
 十日以内ニ郵便遞送日數ヲ除ク紙幣頭ヘ差出シ其承認ヲ得テ後

チ之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之
 ヲ株主一同ヘ分配スヘシ

但シ慥カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ
 外其返濟期限ヲ過クルヲ六箇月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯
 貸金ト看做スヘシ

第八十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノ二ニ至ルマ
 テ每半季其純益金ノ内ヨリ少ナクモ十分ノ一宛ヲ引分ケ之ヲ積
 金トナシ以テ非常ノ豫備ニ供スヘシ○右積金一旦十分二ノ員額
 ニ至ルノ後チ若シ損耗其他ノ事故アリテ右割合ノ金額ヨリ減少
 スルキハ尙ホ其後每半季純益金ノ内ヨリ少ナクモ十分ノ一宛ヲ
 積立到底右十分二ノ員額ニ復スヘシ

第九章 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルヲ及ヒ外國銀行ト

聯合スヘカラスル事ヲ明カニス

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ以テ之ニ從事スヘシ

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組ミ又ハ其他ノ營業ニ從事スルヲ得サルヘシ

第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第八十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役タル者ハ自ラ此條例ノ箇條ニ悖ルヘカラス或ハ銀行ノ役員其他ノ者ヲシテ之ニ悖ラシムヘカラス若シ背戻ノヲアルニ於テハ此條例ニ於テ其銀行ヘ附與シタル特殊ノ權利ハ悉ク之ヲ取上クヘシ

但シ右頭取取締役此條例ニ背戻スルキハ紙幣頭ハ其裁判所(又ハ其府縣ノ聽斷主任官員)ヘ通達シテ之ヲ推糺シ其罪ノ實アルニ於テハ即チ其銀行ヲ鎖店セシムヘシ

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戻スルヲアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受ケシムルキハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊

掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換手形諸証書質物及ヒ公裁コテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借り得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其証人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ

役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲナシ又ハ証人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルキハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行ヘ返済スヘシ

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贗造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何

人又ハ何會社ヲ論セズ凡テ紙幣又ハ望次第持參人へ仕拂フヘキ
約束手形又ハ右類似ノ證書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘ
キ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スル
ヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ
國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ
何人ヲ論セス之ヲ贗造スヘカラス造贗セシムヘカラス贗造スル
ヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贗造ト知リテ之ヲ通用スヘカラス
又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描
改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セ
シ紙幣ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラ
ス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似
スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス
又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私
ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私
ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者ア
ルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ
爲換手形約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラズ之ヲ切抜キ又ハ
切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ヨスル等ノ
ヲナナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ
此等ノ數件ヲ犯ス者アルキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)
ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行へ拂ハシムヘシ

第十二章

銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處分特例監
督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債証書ノ没入及
ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條 此條例第六十六條ニ規定スル銀行ノ營業時間中其發
行紙幣ヲ其本店又ハ支店銀行紙幣引換ノ事務ヲ取扱フニ持參シ
テ通貨ト引換ヲ望ムモノアルキ其本店又ハ支店ニ於テ之ヲ拒ミ
又ハ之ヲ怠リテ其引換ヲナサ、ルニ於テハ右紙幣ノ持主ハ其趣
ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ニ差出シ其銀行ニ掛合方ヲ乞
フヘシ○尤頭取取締役其掛合方ヲ止ントスルキハ其引換ヲ拒ミ
シ旨趣及ヒ其金額月日等ヲ書面ニ認メ頭取又ハ取締役之レニ記
名調印シテ之ヲ紙幣持主ニ渡スヘシ然ルキハ其持主ハ右書面ヲ
地方官廳ニ差出スノミニテ別ニ銀行ニ掛合方ハ乞ハサルヘシ

但シ預リ金ノ返却ヲ拒ミ又ハ怠リタル時モ亦其預ケ主タル者ハ
本條ニ準シテ申請スルヲ得ヘシ

第九十三條 右地方官廳ニ於テ紙幣持主ヨリ銀行ニ掛合方ノ書面
ヲ領受スルキハ直チニ其銀行ニ掛合フヘシ而シテ其掛合狀及ヒ
持主ヨリ差出シタル書面ノ寫ヲ紙幣頭ニ送達シテ其由ヲ報知ス
ヘシ尤紙幣持主ヨリ頭取又ハ取締役ノ調印シタル書面ノミニテ受
取リタルキハ唯其書面ヲ紙幣頭ニ送致スルノミニシテ銀行ニ掛
合ニ及ハサルヘシ

但シ紙幣頭ニ報知セシ書面ノ寫ハ其地方官廳ニ藏メ置クヘシ
第九十四條 右地方官ノ報知ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ速カニ検査
ノ官員ヲ命遣シ其事實ヲ推糺シ其背戻ノ事實相違アラサルキハ
都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メテシタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形諸証書類又ハ抵當物地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルコト於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ヲ没入スヘキ旨ヲ右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ申渡シ右公債証書ヲ取上クヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條 紙幣頭ハ出納國債ノ兩頭ニ協議シ此條例第九十六條銀行ヨリ没入スル所ノ公債証書ヲ通貨又ハ其銀行紙幣ヲ以テ公賣又ハ私賣トモ爾時大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ世人ニ賣渡スヘシ尤其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ

取立タル上ニテ其裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官員ニ謀リテ滯リ
貸金額及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借
財又ハ預リ金其外ノ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ
割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ
分散ヲナサシムヘシ

第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其
他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等ア
ル者ハ右時限中ニ申出テシメ其事由ト證書類トヲ檢按シ紙幣頭
ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ
損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコトアルモ其株主
等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外

其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲナスニ
際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコトアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監
督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以内郵便遞送日數ヲ除クナラハ其地
方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實証ア
ルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ
尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ
但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ
達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルコトヲ見合セシムヘシ

第百三條 此條例第九十二條ニ掲載スルカ如ク銀行紙幣ノ引換或
ハ預リ金ノ返濟ヲ拒ミ之カ爲メ生スル處ノ費用即チ紙幣持主或
ハ預ケ金アル者ノ出願入費及ヒ諸檢査推糺ノ入費跡引受人ノ入

費等ハ都テ相當ノ處分ヲ以テ紙幣頭之ヲ取極メ其銀行ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明

カニス

第四百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後ヲ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第四百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ノ内ヲ取戻ス

ヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債證書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

第四百六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

第四百七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議

ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公
告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

第百八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條
ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル
諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘ
シ

第十四章

銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

第百九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一
般ノ人民ヲ相手取り訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴
訟セラル、カノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所又ハ府縣
ノ聽斷主任官員之ヲ裁判處分スヘシ

第百十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付

テハ裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官員之ヲ裁判處分スヘシ但シ此
條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スコトアルキハ其時ニ當リ其
裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官員ニ於テ相當ト思考スル罰金三圓
ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル額數ヲ右犯罪ノ銀行又ハ
頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス

第百十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ
制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第十六章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス

第百十二條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ
何時ニテモ之ヲ増補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコト
ルヘシ但シ右増補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

國立銀行成規略ス

(第七百六十八條) 同十年十二月十二日第八十三號布告

明治九年八月第八百六號布告國立銀行條例左ノ通追加候條此旨布告候事

國立銀行條例追加

第一條 大藏卿ハ此條例ヲ遵奉シテ創立スヘキ銀行ヨリ發行スル紙幣ノ員額ヲ制限スルヲアルヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ銀行ヲ創立セント欲スル者アルトキ大藏卿ハ其地方ノ便否ヲ審案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セス又ハ其資本金額ヲ減少スルヲアルヘシ

○國立銀行條例附錄

(第七百六十九條) 明治十年九月廿一日金澤裁判所伺

國立銀行條例第八十八條ニ國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人エ仕拂ヘキ約束手形又ハ類似ノ証書等ヲ出ステ禁スト有之右ハ金券ニ限ルモノニテ米穀其他酒油等ノ諸手形ハ右條例外ノモノト相心得可然哉

會社又ハ穀物問屋等ヨリ米券ヲ出シ何人ニ限ラス米券所持ノモノエ其米額ヲ可仕拂約束手形アリ此手形ハ民間互ニ賣買ヲ爲スモノニテ金券ニ類似スレトモ現ニ米賣買ノ爲メ出ス証券ナレハ銀行條例第八十八條ニ觸レサルモノト相心得可然哉

指令 十年十月二十日

伺ノ通

但シ米券等ヲ名トシテ紙幣同様ニ通用スヘキ諸切手ニ均シキ取扱ヲ爲スモノハ此限ニ非ス

○地券渡方規則

(第七百七十條) 明治八年十月九日第五百五十三號布告
家督相續或ハ贈遺等ニ由テ地所讓受候節地券書換手續左ノ通相定
候條此旨布告候事

第一條

一 生存者ノ家督相續ニ由リ及ヒ總テノ贈遺親族他人ニ拘ハラズ生
存及遺囑ノ贈遺ヲ云
ニ由テ讓受タル地所ハ其地券書換不申受者ハ本年六月第六號布
告ニ據リ處分可致事

第二條

一 死亡者ノ跡家督相續ニ由テ讓受タル地所ハ其讓受タル日ヨリ滿
六箇月ヲ過キ地券書換ヲ不申受者ハ其地券一通ニ付證印稅地券
書換

証印稅 五倍ノ科金取立地券書換可相渡事

(第七百七十一條) 同九年五月十六日地租改正事務局甲第一號布達

府 縣

明治六年 月 十二 第三百九十六號公布代替授與并水火盜難ニヨリ地券
書換証印稅及ヒ荒地其他無代價券狀書換証印稅自今左ノ通相定候
條此旨布達候事

代替授與并水火盜難ニヨリ地券書換証印稅

〔券面書載ノ代價ニ不拘券〕 壹通ニ付 證印稅壹錢

荒地其他無代價券狀授與書換証印稅

壹通ニ付 證印稅壹錢

(第七百七十二條) 同九年五月十二日第六十七號布告

隱田切開切添地等ノ儀ニ付テハ明治五年 月 九 大藏省第百二十六號布

建地券渡方規則中第二十一條及明治六年九月第三百十五號ヲ以及布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被相定候條此旨布告候事

第一條

隠田切開切添地ノ此布告以前ニ係ルモノ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

但此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第二條

蕪落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セス該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照シ處分スヘシ

第三條

官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖モ從來官山官林用地附屬地等ノ証アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ申出ル時ハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其者へ素地相當代價ヲ以可拂下其民有トナシ難キモノハ直チニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許ス儀モコレアルヘシ

第四條

前條侵墾地地租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照シ處分スヘシ

第五條

前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリ未タ地代金ヲモ納メス

シテ未着手ノモノハ直ニ返地セシメ其民有地トシテ差支ナキモノ
ハ更ニ相當代價ヲ以其者へ可拂下其地代金ヲ納メスモ已ニ着手ス
ルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ

第六條

凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入トナス者此布告以前ニ
係ル分地租改正濟迄ニ申出ルモノハ其罪ヲ問ハヌ其民有地トナシ
差支ナキモノハ賣買并流質地共買得者及質取主へ其儘無代價ニテ
下渡其民有地トナシテ差支アルモノ并質地年限中ノモノハ官有地
ニ編入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不論律
ニ照シ處分スヘシ

○地券渡方規則附錄

(第七百七十三條) 明治九年三月十五日埼玉裁判所伺

第一條 甲所有ノ田地ヲ乙ニ沽ル諭へハ田五反ヲ代價百圓ニ定メ
甲乙連印シテ地券書換願出未タ券帖渡ラサル内百五十圓ニ賣與シ
タルヲ發覺ス因テ之ヲ審問スルニ其五十圓ハ乙ヨリ甲ノ窮乏ヲ憫
ミ注意金ト名目シテ贈リタル旨申立ル斯ノ如キハ無罪ニ歸スルヤ
或ハ各不應爲輕重ニ問ヒ聽贖シ更ニ改正シテ地券書替願ハセ可申
哉

指令 九年五月一日

甲ノ窮乏ヲ憫ミ別ニ金ヲ贈ルヲ明白ナルニ於テハ罪ノ問フヘキ
ナシ又地券ヲ書替ヘルニ及ハス

第二條 前條如シ不應爲ニ問フキハ戸長情ヲ知ラハ違式ニ科シ知
ラサル者ハ坐セスシテ可然哉

指令

前條指令ニ依テ心得ヘシ

(第七百七十四條) 同九年十月二十六日長崎裁判所伺

明治八年第五百五十三號公布家督相續或ハ贈遺等ニ由テ地所讓受ケ候節地券書換手續第二條滿六個月ヲ過キ地券書換ヲ不申受者ハ其地券壹通ニ付証印稅五倍ノ科金取立地券書換可相渡ト有之右地券書換ヲ怠リ六個月ヲ過ルト雖モ刑法ニ相觸レタル者トモ難被存ニ付科金取立方ハ地方官ノ處分ニ屬シ候儀ト存シ候得共明治六年第百八號御達ノ趣モ有之科金ノ二字ニテ處分方聊疑惑ヲ生シ候

指令 九年十一月二十二日

裁判所ニ於テ處分ス可シ

(第七百七十五條) 同九年十二月十四日神奈川縣伺

管下相州足柄下郡箱根驛平民金澤藤次郎津田治郎吉儀各養父死亡

跡家督 藤次郎七年二月相續ニ依リ讓受候地所地券書換之儀本年十月ニ至リ出頭候ニ付事實取糺候處右兩人儀ハ元來赤貧ノ者ニシテ出稼ニ以テ活路ヲ經營スルニ依リ相續後出稼之爲管内外へ漂徃シ數月ヲ閱シ本年ニ至リ歸棲セシ處死亡跡地券書換ノ儀ニ付テハ御布告相成居候趣初テ確知シ驚愕ノ餘リ速ニ出頭候旨申立右ハ昨八年天政官第五百五十三號公布之通期限内ニ出頭候ハ、科金追徴ヲ要セサル處出驛中公布ヲ辨知不致迎延候旨申立候得共設令管外へ漂留中ト雖モ熱知スヘキ筈之處具陳之如ク貧窶者ニシテ賤業ヲ以糊口ヲ計候ニリ不知法矩ニ悖違シ畢竟本人共之等閑ヨリ遷延ニ出ルト雖モ右等ノ情狀實際無餘儀場合ニ相聞全ク故造ノ所以ニ無之分ハ科金之處分ヲ要セス直ニ券狀書換授與不苦筋ニ候哉

指令 九年十月十日

伺之趣ハ昨明治八年太政官第五百十三號御布告ニ依リ科金ノ處分ニ及フ可キ儀ト心得可シ

但シ科金取立方之儀ハ裁判所ニ於テ處分スル儀ト心得可シ

(第七百七十六條) 同九年十月九日茨城縣伺

第一條 死亡者ノ跡家督相續ニヨリ讓受タル地直ニ地券書替可申請ノ處在舊日月ヲ經ルノ間ニ於テ本人死亡者ノ跡相續人犯罪ノコアリ其末懲役ニ處セラレ驅役中竟ニ滿六個月ヲ經過ス役滿チテ放免セララルニ當リ則書替ヲ請願スル類有之因テ推算スルニ其懲役中ノ日月ヲ算入スレハ期限既ニ過クルト雖トモ右服役ハ全本人ノ等閑ノミニ出タルニモ非レハ該日數ハ書替限内ニ算入セサルモノト相心得可然哉

指令 十年三月七日

伺ノ趣地券書替ヲ申出ルハ必シモ本人ニ限ルニアラス本人懲役ニ處セラレ自ラ申出ルコト能ハサル時ハ代人ヲ以テ請願ス可キ儀ニ付服役ノ日數ハ書換限内ニ算入スル儀ト可心得事

第二條 代替授與其外地券書替證印稅ノ儀ハ明治六年太政官第三百九十六號公布ノ通券面代價ニ拘ラス券狀一枚ニ付五錢宛收入ノ等ナレハ五倍科金ハ則二十五錢取立可然ノ處右印稅自今壹錢ト相定候云々地租改正事務局本年甲第一號布達ニ付テハ此達以後科金取立書換可相渡分ハ其地所讓受タル印稅更定ノ以前ニアルモ此節書換授與スルコトナレハ無論壹錢ノ印稅五倍五錢ノ科金取立候事ト相心得可然哉

指卷

伺ノ通

第三條 前條科金ハ罰則アルモノト異リタレハ書換ノ每度地方廳ニテ直チニ取立候事ト相心得可然哉

第四條 前條科金地方廳ニテ取立候上ハ其人名等仕譯書及上納証書相添該金ハ爲換手形ヲ以月限御省へ相納候事ト相心得可然哉
指令

第三四條明治六年太政官第二百八號御達ニ依リ裁判所ニ於テ處斷追徴スル儀ト可心得事

○公債証書發行條例

(第七百七十七條) 明治九年四月十七日第五十號布告

明治八年五月第九十五號布告新舊公債証書發行條例第二條第二節第四條第一節第六條第十二節左ノ通改正増補候條此旨布告候事

新舊公債証書發行條例

第二條

第二節 明治二十九年迄毎年ノ下ニ(六月一日ヨリ十五日迄)ノ十字ヲ加フ

第四條

第一節 合計表ノ下(ヲ作リ新公債上半季ノ利金表ハ五月十日迄下半年季ノ利金表及舊公債年賦金表ハ十一月十日迄ニ毎年大藏省ニ差出スヘシ)ト改ム

第六條

第十二節 毎年六月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息渡方并十二月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲スニ付五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五日迄ハ各

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 百 | 二 | 二 | 二 | 二 | 三 | 三 | 三 | 三 | 四 | 四 | 四 | 四 | 五 | 五 | 六 | 六 | 七 | 七 | 八 | 八 | 九 | 九 | 千 |
| 五 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 | 百 |
| 十 | 圓 | 圓 | 五 | 五 | 圓 | 圓 | 五 | 五 | 圓 | 圓 | 五 | 五 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 |
| 圓 | 未 | 以 | 十 | 十 | 未 | 以 | 十 | 十 | 未 | 以 | 十 | 十 | 未 | 以 | 十 | 十 | 未 | 以 | 十 | 十 | 未 | 以 | 十 |
| 以 | 滿 | 上 | 圓 | 圓 | 滿 | 上 | 圓 | 圓 | 滿 | 上 | 圓 | 圓 | 滿 | 上 | 圓 | 圓 | 滿 | 上 | 圓 | 圓 | 滿 | 上 | 圓 |
| 上 | | 未 | 以 | 滿 | 上 | | 未 | 以 | 滿 | 上 | | 未 | 以 | 滿 | 上 | | 未 | 以 | 滿 | 上 | | 未 | 以 |
| | | 滿 | 上 | | | 滿 | 上 | | 滿 | 上 | | 滿 | 上 | | 滿 | 上 | | 滿 | 上 | | 滿 | 上 | |

七個年七分五厘分
 八個年分
 八個年二分五厘分
 八個年半分
 八個年七分五厘分
 九個年分
 九個年二分五厘分
 九個年半分
 九個年七分五厘分
 十個年分
 十個年二分五厘分
 十個年半分

一終身祿ノ者ハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

右一個年七分ノ利子ヲ給ス

右一個年六分ノ利子ヲ給ス

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 二 | 三 | 三 | 四 | 四 | 五 | 五 | 七 | 七 | 百 |
| 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 | 十 |
| 五 | 五 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 |
| 圓 | 圓 | 未 | 以 | 未 | 以 | 未 | 以 | 未 | 以 | 未 |
| 未 | 以 | 滿 | 上 | 滿 | 上 | 滿 | 上 | 滿 | 上 | 滿 |
| 滿 | 上 | | | | | | | | | |

十一个年分
 十一个年半分
 十二个年分
 十二个年半分
 十三个年分
 十三个年半分
 十四个年分

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者ヘハ

十年以上ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

十年未滿ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス

八年未滿ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

六年未滿ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

四年未滿ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス

三年未滿ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス

二年ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

第二條

此公債証書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之レニ準シ年々兩度ニ下渡ストス

第三條

家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルキ元高ニ向テ公債証書ヲ付與スル制限左ノ如シ
譬ヘハ

一金壹萬圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債証書ノ利子一个年五歩金三千二百五十圓ト成ル

一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此公債証書ノ利子一个年五歩金三千三百四十一圓廿五錢トナル

右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓廿五錢ノ過ト成ル然ル時ハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九十一圓廿五

錢ヲ引去リ利子三千二百五十圓ニ適當スル公債証書ヲ下渡ヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ督之ニ準ス

第四條

此公債証書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云モ其發行スル種類ハ左ノ如シ

五圓 十圓 廿五圓 五十圓 百圓

三百圓 五百圓 千圓 五千圓

第五條

前條公債証書ヲ付與スルキニ當リテ公債証書ニ未滿ノ端金ハ都テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條

此公債証書ノ元金ハ五個年間之ヲ据置キ六個年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十個年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條

此公債証書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債証書發行條例ノ通リタルト心得ヘシ

(第七百七十九條) 同九年八月五日第百九號布告

今般第百八號ヲ以テ布告候金祿公債証書ノ儀ハ追テ指令ニ及フ迄書入質入並賣買約定取結候儀ハ禁止候條此旨布告候事

(第七百八十條) 同九年十二月十一日第百五十二號布告

家祿賞典祿改制ノ儀本年八月第百八號ヲ以テ布告候處右ノ内舊藩廳ニ於テ祿券賣買差許有之從來現場賣買致シタル家祿ノ向ニ限リ其高ノ多寡ニ不拘總テ十個年分ノ金高公債証書ヲ以テ一時ニ下賜來

三〇四

明治十年ヨリ年壹割ノ利息下渡候條右元金消却利金下渡方等ノ儀
ハ金祿公債証書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

(第七百八十一條) 同十年三月十三日第三十二號布告

各社領朱黑印地並除地收額中ヨリ從前配當受來候舊神官ノ輩ハ右
配當高ヲ別紙祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五個年分ノ合計配當祿公
債証書ヲ以テ一時ニ下賜候條右公債証書ハ明治八年^八月^八第百三十號
布告ノ通可相心得此旨布告候事

但配當米金受來候者ハ確証相添來ル^ル四月三十日限リ其管轄廳へ
可申出若シ右期限後ニ至リ如何様ノ事情申出候共採用不相成候
條此旨兼テ可相心得事

祿制零々

(第七百八十二條) 同十年三月廿八日第三十四號布告

明治八年^五月^五第九十五號布告新舊公債証書發行條例第六條第十二節
即チ九年^四月^四第五十號ヲ以改正ノ廉並八年^八月^八第百三十號布告第二條
左ノ通改正候條此旨布告候事

新舊公債証書發行條例

第六條

第十二節 元金年賦渡方ヲ爲スニ付ノ下(五月一日)ヲ(四月一日)ト改
メ(十一月一日)ヲ(十月一日)ト改ム

八年^八月^八第百三十號布告

第二條 証書所持人混淆セサル爲メノ下(十月一日)ヨリハ(九月一
日)ヨリ十一月十五日マテト改ム

○公債証書發行條例附錄

四〇四

(第七百八十三條) 明治八年六月二十九日石川縣伺

爰ニ甲乙ノ兩人二十五圓宛ノ公債証書ヲ所有シ其証書ニ記名ヲ誤
寫シテ削去リ改書スル者アリ甲ハ秩祿公債証書ナルヲ以テ明治七
年第三十九號公布家祿引換公債証書發行條例第十八條ニ照シ其高
拾倍以上ニ相當乙ハ新公債証書ナルヲ以テ本年第九十五號公布改
正新舊公債証書發行條例第十一條第一節ニ照シ其高拾倍以下ノ罰
金ニ相當然レハ乙ハ二百五十圓以下一錢迄裁判官ノ意見ヲ以テ罰
科ス甲ニ於テ御改正無之内ハ二百五十圓以上科セサルヲ得ス右ハ
其犯情同フシテ罰金ニ至リ雲壤ノ懸隔有之テハ權衡甚不妥ニ存候
間公債証書ニ秩祿ト新舊ノ區分有之趣意明了御垂示被下度

指令 九年二月
十三日

明治八年第三百三十號布告ノ通り心得可シ

(第七百八十四條) 同九年一月二十七日廣島縣伺

譬ヘハ公債証書讓渡ノ際其証書甲ノ粹ヘ捺印スヘキヲ誤テ乙ノ粹
ヘ捺印ス然ルニ其謬誤ヲ恐懼シ一時ノ痴情ヨリ猥ニ右捺印ヲ刪除
シ其孔ヘ類似スル紙ヲ糊附シ而シテ事情委曲自首スル者アリ今之
ヲ處斷スルニ公債証書發行條例第十一條云々其金高十倍以下ノ罰
金ヲ命ストアルニ依レハ凡酌減スルモ金高九倍ヲ減シ一倍ヲ科ス
ルヲ以テ減スルノ極トシ可然哉又ハ其一倍ノ十分一若クハ二十分一
迄モ酌減シ不苦哉右等ノ如キハ一時失錯ヲ恐怖セシ癡情ニ出ル迄
ニテ聊奸詐韜晦ノ情ナク加之事情ヲ首服スルモノニ付情狀ヲ酌量
シ雜犯律不應爲ノ輕重ヲ以テ論スルモノニハ無之哉

指令 九年二月
十七日

例ニ十倍以下トアレハ二倍或ハ二倍ノ十分一二十分一ヲ科スル
等裁判官ノ見込ヲ以テ酌減シテ不苦事

(第七百八十五條) 同九年二月十五日警視廳伺

乙公債証書ヲ以之ヲ官ニ納レ抵當トス然ルヲ甲(官員)ニテ監守人ナリ之ヲ私借シテ乙ニ渡シ甲乙合シテ之ヲ私用ス乙又公商公買ニ由リ之ヲ丙ニ轉賣ス丙其情ヲ知ラスシテ又之ヲ丁ニ轉賣シ正贓現今丁ノ手ニ存在セリ乃チ公債証ハ丙丁公商公買ニ由リ其讓リヲ受ルト雖モ甲ノ私借シテ乙ニ渡スヤ既ニ其正ヲ失シ候者ナレハ警察上ニ於テ正贓現在スル所ニ從テ其轉賣ヲ差留メ置他日裁判所ノ處分ヲ可待哉又ハ勝手ニ爲賣捌候共不苦哉

指令 九年二月十八日

相當ノ手數ヲ公ケニ盡シ讓受ヲ爲ス者ハ轉賣ヲ差留ムルニ不及事

(第七百八十六條) 同九年十月十二日新潟裁判所伺

爰ニ地方廳ニ於テ家祿奉還ノ士族ニ下渡スヘキ資金及ヒ秩祿公債証書ヲ未ク該奉還主ニ下渡サ、ル以前他人該奉還主ノ委任狀ヲ詐爲シ之レヲ以テ受取方ヲ申請ス地方廳ノ公債掛ニ於テ其詐僞ニ罹リ資金及ヒ公債証書ヲ詐僞ノ該犯ニ下渡シ仍ホ公債証書ハ該犯ヨリ他人ニ賣渡シ其賣渡ニ付テ公債掛ニ於テ名前替及ヒ係リ官員調印等ノ式ヲ終テ現今買主ノ所有ニ存ス然ルニ其詐爲ノ委任狀ハ明治七年十二月第百三十七號布告ニ違ヒ規則ノ界紙ニアラサルヲ以テ委任ノ証據トス可キノ効ナキ者ニ有之其他奉還主ヨリ受取方ヲ他人ニ托シタルノ憑據トスヘキノ廉無之又奉還主ニ於テハ受取方ノ委任ヲ與ヘサルノ証據アリテ該犯既ニ伏罪ス因テ奉還主ハ素ヨリ下渡ヲ受ケサルモノニ付盜ニ依テ損害ヲ受ルノ理ナク到底官廳ノ損害ニ歸ス可ク此追徵處分ニ際リ秩祿公債証書ノ買主ノ手ニ現

在スルモ前顯ノ如ク公債掛ノ式ヲ經タル者ニ付直ニ代金ノ償ナシ
シテ之レヲ追シ難ク又該犯ノ資力限テ追徴スルモ僅々ニシテ公債
証書代金ノ償ヒニ充ルニ足ラヌ就テハ唯該犯ヨリノ追徴金ヲ事主
ナル地方廳へ相渡シ右ノ公債証書ハ直ニ買人ヨリ追シ難キ旨ヲ
其廳ニ通知シ置クニ止メ該公債証書ノ代金ヲ償テ買人ヨリ地方廳
へ取戻スト否ハ裁判ノ外トシテ關キ可然哉

又秩祿公債証書ノ如キハ尋常物品ニ異ナルヲ以テ到底其官廳ヨリ
ハ家祿奉還主へ下渡サ、ルヲ得サルモノナルニ依リ裁判上ニテハ
其現在スル所ノ買人ヨリ追シテ事主ナル地方廳ニ還スヘキモノト
シ而シテ前ニ賣渡シ名前替ノ手續ト式ヲ其廳ニ於テ誤テ爲シ與ヘ
タルヲ以テ買代金ノ償ヒハ又其廳ヲシテ買人へ償ハシムル迄ノ處
分ヲ盡スヘキモノニ候哉若シ其處分ヲ盡スモノトセハ地方廳ヲ裁

判ニ加フル儀ニ付時宜ニ依リ此上當該官吏ヲ呼出シ尋問ニ及ヒ又
ハ追徴ノ處分申渡シヲモナスヘキヲ以テ地方裁判所ノ權限ヲ踰越
スルノ差問ハ有之間敷哉

指令 九年十二月九日

官廳ノ保証ヲ經テ賣買ノ式ヲナスニヨリ官廳其價ヲ償ハサレハ
追徴スルヲ得ス且刑事ニ屬スルヲ以テ當該官吏ヲ呼出シ尋問
ノ上追徴等ノ處分ヲ盡ス可シ

○遺失物取扱規則

(第七百八十七條) 明治九年四月十九日第五十六號布告

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺テ及ヒ其所
在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其
場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物
ヲ以テ論スルヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサ
レハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ壹年内其主ナキ時ハ之ヲ得
者ニ給ス

第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數並ニ遺失ノ日時場
所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其
返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハ
シムルヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス

二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭

フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘ
シ官之ヲ其主ニ還シ止メ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 凡官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得ル者ハ並ニ官ニ送リ
地主ト中分セシム但其主分明ナルモノ及ヒ盜贓ニ係ルモノハ此
限ニ在ラス

第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナ
ラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置
シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ
得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ

給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官

ニ沒ス

第十三條 凡公私債証書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ証明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

(第七百八十八條) 同九年八月廿四日內務省乙第九十七號達

府 東京府 縣 除ク

本年四月第五十六號公布遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品之儀ハ之ヲ公賣シ其金額每六個月分 七月ヨリ十二月迄 取纏メ明細書相添大藏省へ納付可致此旨相達候事

但第十二條應禁ノモノハ此限ニアラス且本文ノ通納付候ハ其

五一四

段當省へ可届出事

(第七百八十九條) 同九年十二月二十日内務省乙第三百三十六號達

府

東京府
縣ヲ除ク

本年八月當省乙第九十七號沒官之物品取扱方達書左ノ通改正候條此旨相達候事

遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品ノ中裁判ニ係ルモノハ裁判所ニ送付シ裁判ニ係ラサルモノハ之ヲ公賣シ其應禁物ハ一旦廢毀スルノ後ハ之ヲ公賣スルモ害ナキモノハ同様處分シ其金額每六個月分七月ヨリ十二月迄取纏メ明細書相添大藏省へ納付可致事
但本文ノ通納付候ハ、其段當省へ可届出事

(第七百九十條) 同十年九月廿七日内務省甲第二十號布達

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以遺失物取扱規則中第六條埋藏物

掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省へ届出檢査テ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人へ下附シ該物品ハ永ク博物館へ陳列可致候條此旨布達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通可取計候事

○遺失物取扱規則附錄

(第七百九十一條) 明治八年十二月八日椽木縣伺

漂着物ヲ拾揚ケ訴出候内ニ一片ノ漁舟及ヒ一個ノ古板類有之殆ント腐朽ニ至リ全ク不用ニ屬シ候品ト推考致シ候儀間々有之候右等ノ如キモ漂流物御規則ニ依リ六十日間揭示ノ上本通知レサレハ一箇年ヲ過キテ之ヲ公賣シ代價ヲ折半シテ拾主ニ給フ可キ筋トハ在

六一四

候へば既ニ拾揚ルノ日本主ノ知レサルノ稍料知セラレ候ニ付右規則ヲ踐行シ空シノ腐朽ニ至ラシムモ恐クハ徒法ニ属シ且之ヲ看護スルノ人民自然迷惑ヲモ醸シ候哉ニ相聞候間右様ノ類ハ得遺失物ノ例ニ依リ三十日間揭示シ本主訴出無之節ハ拾揚主へ全給致シ可然哉

指令 九年二月二日

朽廢ニ至リ保存シ難キモノハ直チニ公賣シ其代價ヲ現品ト視做シ規則ニ照シ處分スヘシ

(第七百九十二條) 同八年五月二十五日滋賀縣伺

第一條 湖川ニ繫置ク漁船材木等暴風洪水等ノ天災ニ罹リ流失スルヲ拾ヒ揚ケ届出ル時ハ本年六月一日以後ハ本年第六十六號御布告難破船及ヒ漂流物取扱規則ニ依リ處分スルハ勿論ノ所若其流失

物暴風洪水等ノ天災ニ罹ルニアラスシテ全ク持主ノ疎漏ヨリ流失スルノ証跡明確ナル場合ニ於テハ得遺失物律ニ照シ處分シテ可然哉

第二條 流失物ヲ拾得届出ルニ流失主知レサルトキハ其流失スル所以果シテ天災ニ罹ル歟又ハ持主ノ疎漏ニ出ル歟知ル可カラサルヲ以テ如此場合ニ於テハ天災ニ罹リ流失スル者ト見做シ姑ク難破船及ヒ漂流物ノ規則ニ依リ處分シ置キ三十日ヲ過キ流失主相知レ疎漏ヨリ流失スル証跡明白ナル時ハ得遺失物律ニ依リ悉皆拾主ニ給與シテ可然哉

第三條 漁船材木等ヲ流失スルニ其流失スル所以ヲ取糺スニ別ニ暴風洪水等ノ天災ニ罹ルノ証跡無之又平日繫キ置ク可キ場所ニ繫キ置ク所流失スト申立其流失スル所以判然セサルトキハ得遺失物

律ニ依リ處分シテ可然哉

第四條 河岸ニ繫キ置ク船筏ヲ盜取乘捨ニ致シ置クヨリ流失スルヲ拾得ル者アルトキハ律例第二百八十三條ニ依リ私物ナレハ一半ヲ其主ニ給シ候テ可然哉

第五條 漂着物ヲ拾得官ニ送ラサル者ハ得遺失物律ニ依リ處分シ若シ天災ニ罹ルノ漂着物タルヲ知テ官ニ送ラサル者ハ違令輕重ニ擬シ重キニ從ヒ處斷シテ可然哉

指令 九年二月三日

漂着品ヲ拾得ル者ハ其天災ニ罹ルト否トテ問ハス都テ漂流物取扱規則ニ依リ處分スヘシ其官ニ送ラサル者ハ違令輕重ニ問擬ス

(第七百九十三條) 同八年七月九日青森縣伺

明治七年御省日誌第百四十九號警視廳遺失物取扱方伺(御指令第

六條牛馬等ノ動物ハ拾主ハ畜養セシム若シ畜養シ難キ事情アルモノハ出張所ニ留置キ尋常遺失物ノ例ニ依テ處分セシ云々但本文動物ニ限リ二日(四十八時間ヲ云)以内ニ遺失ノ訴ヲ爲スモノハ尋常遺失物ノ例ヲ用ヒス全ク本主ニ給付ス云々トアリ然ルニ該縣下ノ如キハ朝ニ田畑籽耕ニ出ルモ其畜養スル所ノ牛馬ヲ牽キ行キ耕場近傍ノ田野ヲ論セズ放テ置キ夕ニ歸來ノ節其居所ヲ認メ牽キ歸リ甚キニ至テハ之ヲ原野ニ放テ置キ一月又ハ二月ヲ經テ後其居所ヲ尋テ連レ歸ル等ノ慣習ニテ縱令甲月ノ初逃逸スルモ乙月ノ末之ヲ搜索スルニ非レハ其逃逸ヲ覺知スル能ハス去リ迎該縣牛馬ノ如キ管下第一ノ產物ニテ其筋骨ノ強壯其氣質ノ溫柔凡全國ニ冠タリ而シテ其冠タルヤ彼ノ生ヨリ死迄一室内ニ屈居セシムル者ト異ナリ之ヲ原野ニ放テ置キ舉動其意ニ任セ其天性ヲ全スルニ出ルヲ以テ官

亦之ヲ禁止スル能ハス故ニ甲月ノ初拾主ヨリ届出定日間揭示ノ上
 拾主ニ給スト雖モ本主ハ乙月ノ末之ヲ搜索スルニ非レハ嘗テ其逃
 逸ノ情ヲ知ラサル儀ニテ殆不都合且ツ縱令本余逃逸ノ情ヲ知ルト
 爲スモ該縣ノ如キハ山野廣漠東西六十二里余南北五十四余ニテ定
 日ノ揭示ニテハ逆モ各小區ヘ達スル能ハス況ニ二日以内ノ訴ヲ爲ス
 ニ於テチヤ府下ノ如キ原野ヘ放テ飼ハ勿論三尺以上ノ繩ニテ牽キ
 行クモ其罰有之地ニテ遺失セシ者ト前條ノ如キ放テ飼先ヨリ逃逸
 自然遺失ノ姿ニ立到ル者ト其情天地隔絶且ツ之ヲ揭示スルニ至テ
 ハ府下朝令暮達ノ地ト大ニ異ナリ前御指令ニ依リ處分致シ候テハ
 聊情法不相副様相考候ニ付牛馬拾得ル旨届出ル節ハ各警察出張所
 並各大區ヘ六十日間揭示致シ置牛馬ハ拾主ニ畜養セシム若シ畜養
 シ難キ事故アル者ハ之ヲ官ニ畜養シ右日限内本主遺失ノ訴ヲ爲ス

キハ牛馬ハ全ク本主ニ給シ官私共畜養費ハ本主ヨリ償ハシメ尙ホ
 拾主ヘ對シ相當ノ手数料ヲ辨給セシメ右日限内本主不相分キハ尋
 常遺失物ノ例ニ比照シ全ク拾主ニ給與ス尤官ニ畜養セシ分ハ現物
 ナ沽却シ畜養ノ費ヲ去リ其餘ヲ以テ拾主ニ給シ畜養ノ費ヲ償フニ
 足ラサル者ハ拾主ニ給セサル事ニ處分致シ當否如何可有之哉

指令 九年三月十五日

牛馬ヲ放テ置ク習慣ノ地方ニテハ遺失物ト謂ヒ難シ仍テ適宜ノ
 處分ニ及フ可ク

(第七百九十四條) 同九年一月十九日山形縣伺

第一條 人ノ邸宅内ニ於テ其邸宅主ノ所有ニ非ル他人ノ遺失物ヲ
 得一應其邸宅主ヘ届ノ上官ニ送ル者ハ改定律例第二百八十三條ニ
 依リ處分致シ可然哉

指令 九年三月十五日

遺失主ニ全給ス一年ヲ待テ主ナケレハ拾フ者ニ給ス中分ノ法ニ依ラス

第二條 劇場其他諸興行場ノ内廊下或ハ棧敷裏或ハ路次通ニ於テ遺失物モ前同様邸宅内ヲ以テ論シ可然哉

指令

前條指令ノ通處分スヘシ

(第七百九十五條) 同九年一月十九日豊岡縣伺

當縣管下ノ産牛タル從來良種ノ聲價有之ヲ以テ概テ一家四五頭ヲ畜養セサルハナシ而テ其畜養タル豫メ區域ヲ畫ルノ牧場アルニ非ズ只畫間ハ山野ニ放畜シ日漸ク西スルニ及テ驅テ家ニ入ルモノ皆然リ若牛馬等ノ活動物ヲ拾得ル者ハ尋常得遺失物ヲ以テ處分スル

ノ例ニ據ラハ或ハ折半ノ利ヲ逞スル者有テ其畫間放畜ノ際ニ乘シ無人ノ處ヲ覘ヒ他へ牽去リ眞ニ拾得ル者ノ如ク官ニ訴告スル等ノ弊害ヲ醸成スルモ難計候間活動物ヲ放失シタルヨリ五日以内ニ於テ拾得ル者ハ相對示談ヲ以テ謝禮セシメ五日外ニ出ルモノハ成規ニ照準シテ折半法ニ從ヒ處分致度

指令 九年三月十五日

牛馬ヲ山野ニ放畜スル習慣ノ地方ニテハ遺失物ト謂ヒ難シ仍テ適宜ノ處分ニ及フ可シ

(第七百九十六條) 同九年二月二十九日濱松縣伺

管下遠江國榛原郡金谷宿字二軒家平民杉本作太郎外十八名ノ者本月十日兎狩ニ罷出候際同村内持淵山ニ於テ多分ノ封金則客年十二月二十一日遠駿國界大井川原ニ於テ内國通運會社宰領田中鉦三郎

ナル者持兇器強盜ノ爲メ強奪ニ逢ヒタル同會社遞送金ヲ見當リ候旨届出候間精細取調候所全額金壹萬四千百五十三圓十四錢八厘有之何レモ封紙ニ差出方請取方共明瞭記載有之加之右持淵山ノ儀ハ大井川水涯ニシテ從來人跡無之地ニ付前強盜ノ遺失金タル判然候間尋常得遺失物例ニ依リ難ク哉ニ有之候間全額ヲ會社へ給付シ會社ヨリ拾得ル者へ相當ノ手數料給與候様處分致シ可然哉

指令 九年三月十五日

得遺失物例ニ依リ官金アラハ官物ヲ以テ處分シ私金ハ私物ヲ以テ處分スヘシ

(第七百九十七條) 同八年十月四日 本省伺

是迄逸失半馬遺失物品ト同様ノ處分ニ有之候得共先般別紙御下問之零ノ通動物々品ノ區分モ有之候ニ付以來ハ動物ハ勿論車船等モ拾

得ル者へ適宜ニ謝禮致サセ候儀允當ト存候就テハ改正處分ノ儀諸向へ御布達ニ相成候哉又ハ當省ニテ取計ヒ可申哉添テ相伺候也

御指令

伺ノ趣第五十六號布告ノ通可相心得事

(第七百九十八條) 同九年五月十七日 橡木裁判所伺

遺失物律改正第二項若シ官私地内云々ト之アル私地トハ總テ民有地ニ属スルモ皆同様ノ儀ニテ自他ノ所有ニ論ナク假令地主所持地内ヨリ自ラ埋藏物ヲ掘得ルモ隱匿シテ官ニ送ラサレハ同様處分可致儀ト相心得可然哉 但凡ソ人ノ邸宅内ニ於テ遺失物ヲ竊取スルモ例二百八十六條刪除相成ル上ハ遺失物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラヌ及ヒ主ニ還サ、ル者ト同様準竊盜ニ一等ヲ減スル心得ニテ其情ヲ知テ其品ヲ受クル等ハ從トナシ亦一等ヲ減シ處分致シ可然哉

指令 九年五月
二十七日

伺ノ通 但書隱匿ノ情ヲ知テ受クル者ハ坐贓ヲ以テ論ス可シ

(第七百九十九條) 同九年十一月三十日京都裁判所伺

遊女屋渡世ノ者アリ該家曾テ小兒生育ノ節相用ヒ爾來年久シク廁
ノ棚ニ上ケ置シ處ノ搜器ヲ家人偶濯掃ノ爲メ取卸スニ内ニ紙包ア
リ披テ之ヲ見レハ純金古金等若干アルニ依リ直チニ官ニ送致セリ
官則チ其次第揭示ニ及ヒ且其金子ノ該器中ニ匿シアルハ賊ノ所爲
ナル可シトテ法衙ニ付セシチ以テ領置スル既ニ一个年七年第六十
七號山梨縣伺第四項其山林等ニ隱シアル物品ト其宅ノ内外ノ差別
ハ之アリト雖モ仍ホ右御指揮ニ照準シ該金右家ニ下付シ可然哉
指令 九年十二月
九日
遺失物取扱方ノ儀ハ裁判上關係之レナキ儀ニ付伺面ノ如キハ地

方廳ニ於テ處分スル儀ト心得可シ

(第八百條) 同十年三月八日千葉縣伺

爰ニ海中沈沒物 價凡金三圓ニシテ沈沒年 ヲ得テ官ニ送ラサル者ア
リ右ハ得遺失物律御改正以前ニ在テハ勿論例第二百八十二條ニ擬
ス可キモノニ可有之候得共同條御刪除ノ上ハ不問ニ置カル可キカ
如シト雖モ明治八年第六十六號公布漂流物取扱規則中漂着物ヲ見
附其物品ヲ私ニ使用スル者等律ニ照シ處分スト有之彼是參考スル
ニ沈沒漂着各趣ヲ異ニスト雖モ取締上關係不尠ニ付其官ニ送ラサ
ルニ至リテハ無罪ニ歸ス可キ筋ニ有之間敷哉ニ被存候右ハ埋藏物
ヲ掘得テ官ニ送ラサルニ比準シ求刑可然哉

指令 十年三月
二十六日

伺ノ通

○贗造金銀銅貨紙幣等取扱規則

(第八百一條) 明治九年四月十九日第五十七號布告

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定入等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贗造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贗造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等贗造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋テ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戸長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ

報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ

第三條 若シ正贗定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贗造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贗造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ

直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條 贗造ヲ知ルト雖モ斷截セズシテ持主ニ還付シ又ハ申立テ
等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

(第八百二條) 同九年五月八日大藏省乙第四十號達

府 縣

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲載ノ
通り鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト
引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳へ引換テ乞ハ
ハ該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換遣シ追
テ右改人ヨリ差出セシ書面へ現札ヲ添紙幣察へ交換申出ヘシ尤交
換手数料ハ別段下與不致儀ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混様區別
可致候此旨相達候事

但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ十圓ニ拾錢ヲ二十錢ニ變換セシ類

ハ假令正札ト雖モ贗摸ノモノニ付右ハ贗札ヲ以テ處分可致候

(第八百三條) 同九年五月十八日大藏省甲第十二號布達

本年^四太政官第五十七號公布贗造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新
金銀銅貨紙幣等贗造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之
然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五十圓十圓ト五圓二圓ト壹圓半圓ト二
十錢十錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ十圓ニ
十錢札ヲ二十錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ贗製ノ
品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色紙別
ノ通各種毎ニ裏暨ヒ描改ノ証ヲ所持人へ明示シ其儘警察出張所等
へ差出同所於テハ右紙幣ノ原因其外取糺シ處分相濟候ハ、引揚切
ニ取計紙幣察へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

別紙略ス

○贖造金銀銅貨紙幣取扱規則附錄

(第八百四條) 明治十年四月十二日東京裁判所檢事局伺

明治七年七月本省日誌第六十六號兵庫裁判所伺指令ニ盜贓タルノ
情ヲ知ラス判金ヲ兌換スルニ判金兌換ノ手ニ現在スト雖モ盜犯金
ヲ還付スルニ非レハ直ニ追徴スヘカラス若シ盜犯ヲ捕獲スルニ賠
償スヘキ資力ナケレハ事主ノ損失ト爲スト有之候處其後同年九月
中太政官第九十三號公布ヲ以舊金銀貨幣價格比較表改定來ル明治
八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノ者ハ各地方廳ニ引換方可申出
右期限中海關稅ヲ除クノ外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦
人民相互ノ取引ハ廢止スト有之猶又明治八年第二百二號同九年第
百五十九號公布ヲ以當時延期中ニ有之候處已ニ相互ノ取引廢止セ
ラレ交換ノ儀ハ地方廳ノ處分ニ歸シ候上ハ價格比較表ハ公納ト交

換トニ用フル迄ノコトニ付舊金銀ヲ以普通貨幣ト同視シ尋常兌換ヲ
以公商ト見做ス可ラス然レハ七年第九十三號公布後ハ舊金銀ト雖
モ諸物品同様現在者ヨリ直ニ徵追可致筋ト相心得可然哉

但當府下ノ儀ハ別紙^甲印東京府布達^乙之^署ニ基キ第一及ヒ第三國立
銀行ハ公商買タル勿論之儀ト相心得候

前條舊貨幣新貨ト交換ノ儀本年十二月マテ延期相成右期限過去ノ
上ハ總テ地金ト見做スヘキ旨昨年第九百五十九號ヲ以公布ニ付來
ル十一年一月ヨリハ勿論尋常贓物同様處分方相心得可然哉

指令 十年四月十八日

第一第二 本文但書共伺ノ通

(第八百五條) 同十年七月二十六日岡山縣伺

今爰ニ甲某アリ花小判天正壽永京目甲州小判等ノ五種ヲ贖造シ固

ヨリ其情ヲ明サス乙某へ一種一箇ニ付若干金ニ賣渡乙某全ク真正ノモノト信認シ尙又丙某へ若干金ニ轉賣ス丙買得ノ後不圖贋造ヲテ手ト疑團ヲ起シ試ノ爲右判金ノ内壹箇截斷セシニ果シテ眞物ニ非ス因テ乙某ヲ喚ヒ右截斷スル金ヲ相示候處乙驚愕初メテ贋造タルヲ知リ夫レヨリ直チニ甲某へ金員悉皆返還セシト欲セシニ甲ノ路程二三十里モ有之彼是躊躇スル内途ニ甲某捕ニ就キ審糾スルニ果シテ贋造ヒシ旨ヲ逐一白狀スル處右判金ノ如キ渾テ價格比較表外ニ係ルモノニ付明治七年八月大藏省布達ニ仍レハ全ク地金ト見做スヘキモノナレト其贋造シタル罪ハ法律ニ問ハサルヲ得サル義ニ候哉又ハ止々地金ヲ賣買セシモノト見做シ不問ニ置テ可ナル哉果シテ問フ可キモノトスレハ乙丙ノ者モ當初眞物ト信認スルモ後ニ至リ贋金ナルヲ知リツ、尙官へ申報セサルニヨリ是亦律ニ

問フ可キハ無論ニ候哉

指令 十年八月二十日

舊金銀貨幣價格比較表ニ係ラサル判金ハ地金ト見做スニ付之ヲ贋造シテ人ヲ欺ク者ハ詐欺取財律ニ依リ其買受ル者ハ官へ申報セサルモ不問ニ置ク儀ト心得ヘシ

(第八百六條) 同十年八月一日岩手縣伺

明治七年九月五日第九十三號ヲ以テ舊貨幣ハ租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止旨御布告相成候處今日ニ至テ舊貨ヲ以テ相對取引候者ハ違令違式等ノ處分ニ及フヘキ哉

指令 十年八月二十二日

違令ニ問フ可シ

○ 代 言 人 規 則

(第八百七條) 明治九年二月廿二日司法省甲第一號布達

今般代 言人規則別紙之通相設ク候條來ル四月一日ヨリ以後ハ右規
則通り免許ヲ經サル者へ代 言相頼候儀不相成候條此旨布達候事

但四月一日以後代 言人無之且本人疾病事故ニテ不得己場合ニ於

テハ其至親父子兄弟又ハ叔姪ノ内之ニ代ルヲ得ヘク若シ至親無之者ハ區

戶長ノ証書ヲ以テ相當ノ代人ヲ出ス亦不苦

代 言 人 規 則

第 一 條

凡ソ代 言人ヲラントスル者ハ先ツ專ラ代 言ヲ行ハント欲スル裁判
所ヲ示シタル願書ヲ記シ所管地方官ノ檢査ヲ乞フヘシ地方官之ヲ
檢査スルノ後狀ヲ具シテ司法省ニ出ス然ル後其訴スヘキ者ハ司法

卿之レニ免許狀ヲ下付ス

第 二 條

代 言人ヲ檢査スルハ左ノ件々ニ照スヘシ

一 布告布達沿革ノ概畧ニ通スル者

二 刑律ノ概略ニ通スル者

三 現今裁判上手續ノ概畧ニ通スル者

四 本人品行並ニ履歷如何

第 三 條

免許ヲ與フヘカラスル者左ノ如シ

一 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレシ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケシ者

三 其地方内ニ定マリタル住居アラサル者

四官職アル者

但准官吏タル者モ亦同

五諸官員華士族及ヒ商家其他一般ノ雇人タル者

但雇主承諾ノ証書アル者ハ此限ニアラス

第四條

既ニ免許狀ヲ與フレハ之ヲ司法省並各裁判所ノ代言人名表ニ登載ス

但免許狀ヲ得タル者ハ必ス該裁判所所在ノ地大區内ニ住居スヘシ

第五條

免許狀ヲ得タル者ハ免許料トシテ金拾圓ヲ司法省ニ納メシム

但免許ハ一年ヲ以テ限リトス若シ引續其職務ヲ行ハント欲スル

者ハ滿期ノ節更ニ免許ヲ受クヘシ

第六條

代言人代言ヲ爲スハ必スシモ同管轄ノ者ニ限ラス都テ雙方ノ協議ニ任スヘシ

但免許セラレタル該裁判所ノ外ハ代言ヲ爲ステ得スト雖モ其域ハ控訴等ニテ従前手續ヲ以テ他ノ裁判所ヨリ上等裁判所ニ出ルカ如キハ此限ニアラス

第七條

代言人ヨリ訴訟本人ニ對シ不正不實ノ証アル時ハ本人ヨリ何時ニテモ裁判所ヘ其由ヲ届ケタル上ニテ代言ヲ辭シ更ニ他ノ代言人ヲシテ代言セシムルヲ得ヘシ

第八條

代理人ハ訟庭ニ於テ其訴答往復書中ノ趣意ヲ辨明シ裁判官ノ問ニ答フル者トス若シ其辨論端緒ヲ失シ詞訟ノ本旨ヲ紊亂シ裁判ノ妨碍トナル時ハ裁判官之ヲ制止スルヲ得ヘシ

第九條

若シ訴答書中遺漏ノ件アル時ハ更ニ書取リヲ差出サシメタル上ニ非サレハ代理人其事ヲ辨明スルヲ得ス

第十條

裁判官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ訟庭上原被雙方互ニ辨論スルヲ得ス

第十一條

告達諸規則ノ事ニ付裁判官ニ向テ旨趣ヲ陳述スルヲ得ヘシト雖モ其是非及ヒ立法ノ原旨ヲ論議スルヲ得ス

第十二條

代理人疾病事故アリテ本日出席スル能ハサレハ必ス裁判所ニ其旨ヲ届出ヘシ若シ代理人故ナク出頭セズシテ聽訟延期スル時ハ訴訟本人ノ爲メ并ニ相手方ノ爲ニ延期ヨリ生シタル費用ヲ償ハシムヘシ

第十三條

代理人ノ謝金ハ代理人其訴訟本人トノ協議ヲ以テ其高サ預定スル者トス

第十四條

- 一 訟庭ニ於テ國法ヲ誹議シ及ヒ官吏ヲ侵凌スル者
- 二 訟庭ニ於テ臆察詐偽ノ辨ヲ爲ス者
- 三 相手方ヲ惡言凌罵シ其面目名譽ヲ汚ス者

三四四

四謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪ル者
五他人ノ貸借取引等ノ詞訟ヲ買取リ自己ノ利ヲ圖ル者
六詞訟ヲ教唆スル者

七故テニ時日ヲ遷延シテ訴訟本人ノ妨害ヲ爲ス者
右ノ如キ者ハ其輕重ヲ量リ裁判官直チニ之ヲ罰スルヲ得其罰目左
ノ如シ

一 譴責

二 停業 一月以上

三 除名 三年ヲ經シ後ニ非レハ
復代理人タルヲ許サス

但其罪重キ者ハ律ニ依テ處斷シ本條罰目ト併セ科スルコトヲ妨
ケ大尤第三條第一項ニ觸ル、者ハ更ニ代理人タルヲ許サス
第十五條

此規則ニ揭クル所ノ者ハ他ノ法律成規ニ相觸ル、コトナシ

(第八百八條) 同九年五月廿九日司法省第五十三號達

府 縣 裁 判 所
裁 判 所 不 置 各 縣

免許代言人ノ輩府縣裁判廳ニ於テ規則第十四條罰目ニ處セラレ并
ニ其罪重ク律ニ依テ處斷スヘキ者ニテ上等裁判所ノ決ヲ取リ及ヒ
代言職務外ノ犯罪ニテ府縣裁判廳限リ處斷ニ及候者等有之節ハ其
都度顛末ヲ具シ當省ヘ可届出此旨相達候事

○ 諸犯則

(第八百九條) 明治九年七月四日大藏省乙第五十九號達

四四四

府 縣

五四四

商船生絲牛馬賣買鑑札改名代替轉居等ニテ鑑札書替下渡候節ハ八年十一月第十一號公布ニ準據シ可取計此旨相達候事

(第八百十條) 同十年七月十九日司法省丁第五十二號達

大 審 院
諸 裁 判 所

勅奏官位及華族ノ犯罪贖罪ニ該ル者又ハ諸規則ニ觸レ罰金或ハ科料ニ處ス可キモノニシテ其推問本人ノ出庭ヲ要セサル事件ニ限リ刑名上請スルニ及ハス直ニ處斷可致旨御達有之候條此旨相達候事

○諸犯則附錄

(第八百十一條) 明治八年五月三十一日筑摩縣伺

年七十以上及ヒ十五以下ノ者諸規則ヲ犯シ罰金科料等ノ處分ハ減則等不見ニ付相當處分シ可然哉

指令 九年一月二十七日

違式註違例ヲ除ク外諸規則老幼ノ別ヲ立テサル者ハ各民一般ニ處分スベシ

(第八百十二條) 同九年一月十四日飾磨縣伺

証券印紙ヲ初メ郵便鳥獸獵讒謗律等其他各種ノ罰則ヲ犯スニ父子兄弟若クハ同居同爨五等親以內ノ血屬ニシテ相共ニ之ヲ犯セハ名例一家共犯ノ項ニ照シ區處可致哉將テ常律ニ拘ハラヌ各別處斷ニ從フ者哉

指令 九年二月三日

諸罰則ハ各自ニ處斷シ讒謗律ハ一家共犯ノ例ニ依テ處斷スベシ

六四四

(第八百十三條) 同九年一月廿五日飾磨縣伺

清酒過造其他無檢印ノ人力車ヲ使用シ無印紙ノ煙草ヲ販賣スル等

各反則者ヲ罰スル誤テ其罰則ニ照ラサズ常律ヲ以テ違式贖罪ニ處
スルノ類右贖金ノ數罰金ヨリ重キニ入レハ其輕キニ貼斷シ若シ輕
キニ出セハ更ニ貼斷スルヲ用ヒス可然哉且右失誤スル官吏ノ罪ハ
贖金罰金ノ多寡ヲ比較シ出入人罪律ニ依テ論スルモ不穩當ヲ覺フ
依テ違式輕ニ問擬可然トモ相考ヘ候ヘ共罰則並律文中正條無之ニ
付相伺候也

指令 九年二月
十三日

犯則ノ者處分方ハ伺ノ通官吏ハ其失出入ノ罪ヲ論スルニ及ハス
〔第八百十四條〕 同九年二月廿九日鶴ヶ岡縣伺

罰金ハ身代限リヲ以テ追シ贖罪金ハ資方限リヲ以テ追シ可然哉
指令 九年三月
二十日
伺之通

〔第八百十五條〕 同九年三月十日三重縣伺

煙草稅則第一則第七條營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニテ失却候節
ハ其旨管轄廳ヘ届出新規鑑札申受可キ事ト有之然ルニ酒造綾油商
船生糸牛馬鑑札ヲ遺失毀損スル者ハ其規則中別ニ科料金ノ目ヲ掲
ク之ニ因テ是ヲ視ルルハ煙草鑑札ニ於ルハ過誤遺失毀損スルモ其
罰則ニ明文ナキヲ以テ處罰ニ及ハサル手前條其罰則ニ明文掲載ア
ルヲ無シト雖モ其省及ヒ縣ノ印アル鑑札タルハ其營業ノ何タルニ
論ナク律例第一百一條ニ照依セサル可ラサル儀ニハ之レ有ル間敷哉
但シ其遺失スルモ水火盜難ニ罹ルハ實跡明瞭タルニ於テハ固ヨ
リ論セサル可キ事

指令 九年三月
二十八日

鑑札ヲ遺失毀損スル者ハ手数料ヲ納メシムルノヨニテ處罰ニ及

九四四

ハス

(第八百十六條) 同九年三月二十九日滋賀縣伺

裁判支廳假規則中印稅其他諸犯則ノ者處分ノ儀不相見右ハ罰金ノ多寡ニ拘ハラス支廳權内一切處分スルコト不被差許儀ニ候哉又ハ該裁判所ノ便宜ニ依リ罰金ノ程限ヲ定メ處分セシメ候テ可然哉

指令 九年四月二十日

諸罰則違犯ノ者ハ支廳ニ於テ處分セシムヘシ

但出板條例新聞條例及ヒ讒謗律違犯ノ者ハ當分本廳ニ於テ處分ス可シ

(第八百十七條) 同九年四月十三日節磨縣伺

第一條 常律ニハ舊惡減免ノ例有之謀故殺ヲ犯ス者ヲ除クノ外斬絞ニ該ル者ト雖モ十年ヲ歷テ發覺スレハ輕減シテ罪ヲ科シ懲役終

身以下ノ如キハ經年ノ多寡ニ從ヒ夫々減等免罪スルヲ聽サル然ノ諸罰則ヲ犯ス者ニ至リテハ獨リ其例ヲ見ス右ハ幾年ヲ歷テ發覺スルモ減等免罪ニ處シ難キ事ニ候乎果シテ然ラハ同ク法律中ノ一部ニシテ一ハ減免ヲ與ヘ一ハ否ラス其權衡如何

指令 九年五月四日

諸罰則ヲ犯ス者三年ヲ經テ發覺スレハ其罪ヲ免ス但犯則ノ物品等存在スル時ハ之ヲ追徵ス

第二條 常律五等減ノ例アリ諸罰則過料多小ノ範圍アリ裁判官ノ意見ヲ以テ情法ヲ酌量輕減スルモ五等ニ過キ若クハ多少ノ範圍ヲ出ス可カラサル論ヲ待タスト雖モ山海僻土ノ細民諸罰則ヲ熟識セサルヨリ往々犯則ニ陷ル者アリ實際ノ情狀ヲ審糺スレハ範圍内極輕ノ過料罰金等ニ科スルモ猶ホ嚴酷ヲ覺フ斯ノ如キハ縱令範圍外

〇五四

ニ出ルト雖モ允當ト思量スルニ至ルマテ適宜ニ輕減候テ不苦手
指令

情狀ヲ酌量スト雖モ範圍外ニ出ルコト得ス

第三條 過料罰金若干圓多少ノ範圍ヲ設クル者ノ外諸罰則中税金
幾倍ノ過料ト確定スル者ハ常律五等減ノ例ニ倣ヒ其情狀ヲ酌量シ
テ輕減致シ可然哉

指令

犯情過失等ニ出テ不得已情實アル者ハ裁判官ノ意見ヲ以テ輕減
シ苦シカラス

(第八百十八條) 同九年五月三日大坂裁判所檢事局伺

諸罰則ハ一種特別ニシテ犯則ノ者ハ尋常刑事ニ觸ル、者ト同一ニ
看倣シ難ク存候付右罰則ヲ犯シタル者ハ犯則發覺ノ場所ヨリ直テ

刑事課ニ送付ス可キ歟又一應檢事ノ手ヲ經由致シ可然哉

指令 九年五月
十三日

伺ノ趣檢事ヲ經由スルハ勿論ト雖モ便宜ニ因リ直チニ送付スル
ハ不苦儀ト心得ヘシ

(第八百十九條) 同九年三月十二日司法省伺書

諸罰則中ニ犯違ノ者ヲ見届ケ訴出ル者ニハ賞譽トシテ其科料金ノ
半高又ハ十分一ヲ給付ト有之ノ類ハ裁判所ニテ賞與申渡犯人無力
徴收スル能ハサルキハ外科料金集リ高ヨリ給付致シ來リ候處若シ
偶集金無之キハ如何取計可致哉右ハ裁判所ニ於テ賞與申渡金子ハ
地方廳定額金ノ内ヨリ立替セシメ可然哉又ハ裁判所ニ於テ同様取
計置キ追テ大藏省ヨリ請取可申哉諸縣ヨリ伺出候向モ有之候間何
分ノ御指揮相成度

三五四

御指令

伺ノ趣外科料金無之時ハ收贖々罪金ヨリ一時支辨シ若シ收贖々罪金無之節ハ裁判所ハ經費金ヨリ地方廳ハ豫備金ヨリ繰替置外科料金及收贖贖罪金徴收ニ隨ヒ順次繰戻シ可申尤該年度中經費又ハ豫備金ヨリ支出ノ金額繰戻難相成分ハ額外常費トシテ下渡候條大藏省ヨリ可受取事

(第八百二十條) 同九年月日不詳三重縣伺

証券印稅規則ヲ犯ス者ハ其犯時ノ規則新舊ニ依リ處罰致ス可キハ各裁判所へノ御達有之候處其餘諸罰則ノ内追テ改正セラレ或ハ是迄ノ規則廢セラレ更ニ新規則ヲ施行セラル、モノ、如キニ於テ目下犯者發覺スルアルハ其犯ス時存在ノ規則ニ照シ處罰致ス可儀ト心得可然哉

指令 九年十月二十六日

伺ノ通

(第八百二十一條) 同九年月日不詳巖手縣伺

明治九年本省日誌第五十六號飾磨縣伺第一條ノ指令諸罰則ヲ犯ス者三年ヲ經テ發覺スレハ其罪ヲ免ス云々トアルハ一般ニ照準シ得テ之レヲ施行シ不苦手

指令 九年十月二十七日

飾磨縣指令ノ通心得可シ

(第八百二十二條) 同十年三月二十一日青森裁判所伺

諸罰則ノ中現品取上料料申付ル等並行ノ者該官誤リテ料料ノミ申付タルキハ改定律例第三百十四條凡故ラニ出入シ云々既ニ斷了ヲ經ルト雖モ檢舉シテ改正スルトヲ得ヘキ者ハ改正シ其出スニ失ス

四五四

五五四

ル者ハ貼斷スルヲ用ヒストアリ罰則ト刑律トハ格別ノ者ニ候ヘ
凡右ニ權衡シ貼斷ニ及ハスシテ可ナラン歟將テ改正致ス儀ニ候哉
指令 十年三月二十八日
猶ホ現品ヲ取上ク可シ

(第八百廿三條) 同十年七月十九日京都裁判所伺

訴訟用野紙又ハ煙草犯則等ノ者告訴スル者へ賞トシテ犯者ヨリ追
スル罰金ノ半額ヲ給與スル儀ハ全ク行政上ノ處分ニシテ之ヲ裁判
所ヨリ直ニ附與スルノ儀ハ不都合ノ筋ニ相見候間右ハ罰金追徵ノ
上其給與ノ金額ハ地方廳へ差廻同廳ヨリ夫々給付有之候様照會可
仕ト存候

指令 十年八月七日

伺ノ趣出訴人賞金ノ儀ハ裁判官ヨリ附與シ不苦候事

○外國人犯則

(第八百二十四條) 明治九年三月十二日内務省乙第二十七號達

廳 府 縣

警察官吏ニ於テ外國人之銃獵スルヲ見認メ差留候節若シ肯セサル
者アル時拘引シテ其筋へ引渡スヘキ手續キハ豫メ外務省へ協議之
上實行候様可致此旨相達候事

(第八百二十五條) 同九年三月二十四日内務省乙第三十五號達

廳 府 縣

本年乙第二十七號達ノ趣詮議之次第有之取消候條此旨相達候事

(第八百二十六條) 同九年三月二十四日内務省乙第三十六號達

廳 府 縣

六五四

警察官吏ニ於テ外國人之銃獵スルヲ見認メ差留候節若シ肯セサル者アル時拘引スヘキ場合柄並手續等ハ豫テ外務省へ伺置候様可致此旨相達候事

○外國人犯則附錄

(第八百二十七條) 同十年十月二十三日神奈川縣伺

爰ニ外國人遊歩規程ヲ犯シタル一ノ清國人アリ外國人遊歩規程ノ義他ノ同盟數國ニ於テハ條約中正條アリト雖モ特リ清國修好條規中正條ヲ見ス僅ニ通商章程第十三款中官吏商民遊歷之義ハ兩國何レモ仕來リノ規則ニ依ル云々ノ文字アリ右ノ數字ニ照據スル者トセハ無罪視スルヲ得ス果シテ有罪ナレハ刑律中何ノ條ニ準據スルノ見込ヲ以テ求判可然哉

指令 十年十一月二日

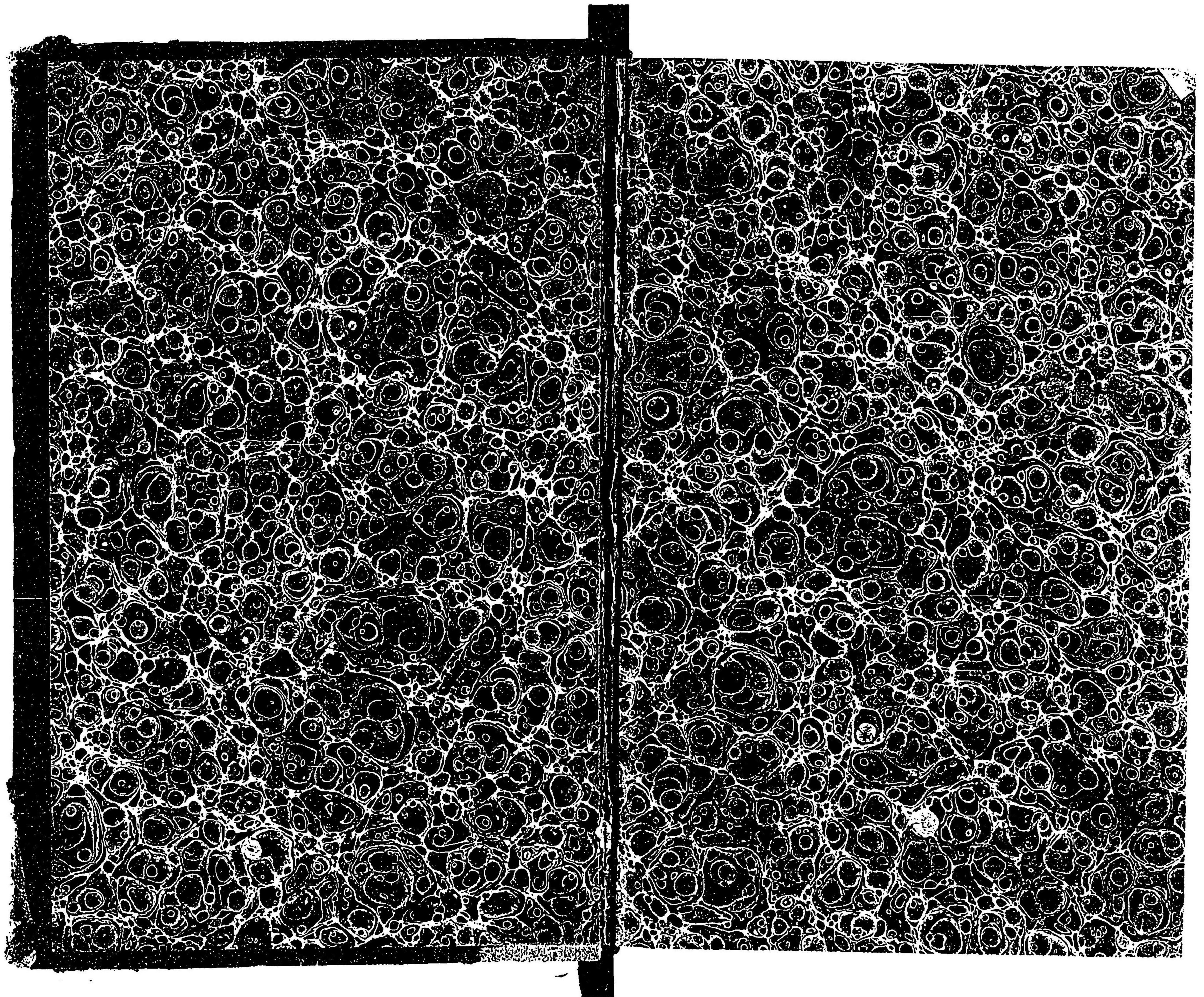
伺ノ趣通商章程第十三款ニ違反スル者違式ニ問フ義ト可心得事

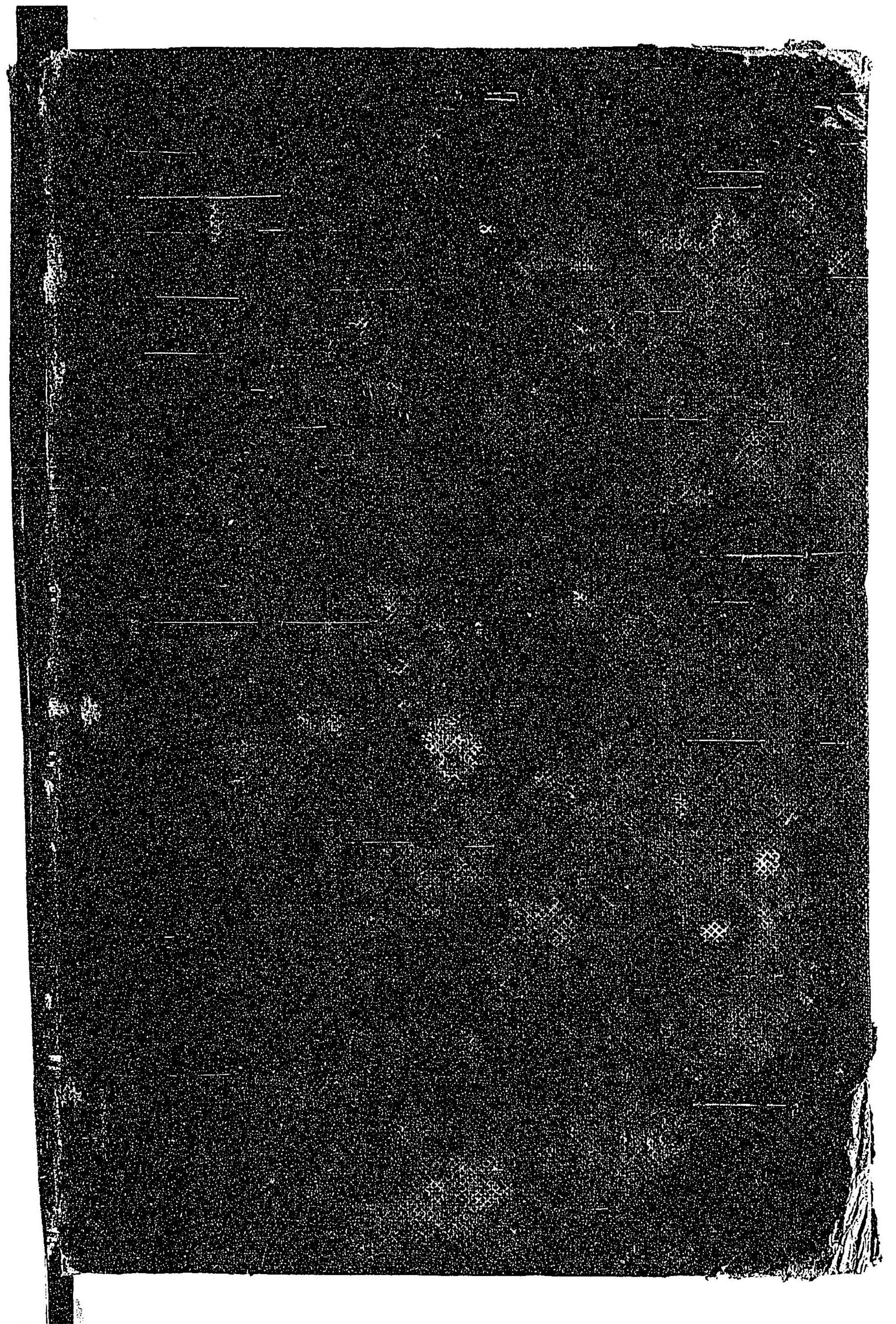
正誤

| | | | |
|-------|------|---------|--------|
| 目次一六丁 | 第十行 | (種)ノハ | (種)ヲノ誤 |
| 同 三二丁 | 第九行 | (著)ハ | (省)ノ誤 |
| 同 三五丁 | 第二行 | (ノ)ハ | (ヲ)ノ誤 |
| 本條一七丁 | 第二行 | (シ)ハ | (シ)ヲノ誤 |
| 三三丁 | 第一行 | (罪)ハ | (罰)ノ誤 |
| 三四丁 | 第十二行 | (ノ)ハ | (ヲ)ノ誤 |
| 六一丁 | 第十一行 | (等)ハ | (等)ヲノ誤 |
| 七〇丁 | 第六行 | (テ)ハ | (ヲ)ノ誤 |
| 一八三丁 | 第一行 | (金税)ハ | (税金)ノ誤 |
| 二〇八丁 | 第一行 | (總計表略)ハ | 重複 |
| 二二四丁 | 第十一行 | (工)ハ | (工)ノ誤 |
| 二三二丁 | 第六行 | (許)ハ | (許)ヲノ誤 |
| 同 三三丁 | 第七行 | (街)ハ | (眩)ノ誤 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|
| 二四四丁 | 二五九丁 | 二八三丁 | 同丁 | 三〇四丁 | 三〇六丁 | 三二四丁 | 三四六丁 | 三七五丁 | 四〇一丁 | 四二一丁 | 同丁 | 四四〇丁 | 四五七丁 |
| 第三行 | 第六行 | 第四行 | 第五行 | 第七行 | 第九行 | 第四行 | 第九行 | 第三行 | 第四行 | 第三行 | 第四行 | 第六行 | 第十一行 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|
| (廢)ハ | (代賣拂金) | (レ)ハ | (ヘ)キハ | (條)ハ | (等)ノハ | (稱)スヘ公 | (額)ハ | (ノ)ハ | (モ)ハ | (余)ハ | (四)余ノ間 | (別)ハ | (判)ハ |
| (廢)ノ誤 | (賣拂代金)ノ誤 | (ヘ)キノ誤 | (レ)ハノ誤 | (儀)ノ誤 | (等)チノ誤 | (公)稱スヘ | (國)ノ誤 | (チ)ノ誤 | (此)ノ誤 | (主)ノ誤 | (里)ノ字ヲ脱ス | (判)ノ誤 | (刑)ノ誤 |





東京圖書館
新門
部一
類五
架〇一
號四五六七

禁電子式複写

036019-001-1

CZ-711-0180

諸規則罰例全書 第3-6卷

神戸裁判所

M11-14

BBP-0640





| | |
|-----------|-----------|
| 東 京 圖 書 館 | |
| 新 門 | 二 〇 函 |
| 一 一 部 | 一 〇 架 |
| 五 類 | 六 六 〇 四 號 |

禁電子式複写

